



成田空港南R.C.会長テーマ
小さな親切

思いやり

創立 昭和41年10月6日
承認 昭和41年11月21日
例会日時 毎週末曜 12:30点鐘
(最終例会 18:30点鐘)
例会場 中国ダイニング富士屋
事務局 〒289-1732
千葉県山武郡横芝光町横芝1519-6
TEL 0479-80-1177 FAX 80-1178
URL <http://www.narita-airport-m-re.jp>
E-mail info@narita-airport-m-re.jp

第2790地区ガバナー 崎山 征雄 第6分區ガバナー補佐 進藤 義男

平成21年5月14日発行 NO.1889第2017例会 会長 富 一美 会報担当 伊藤 元雄

例会報告(平成21年5月14日)

点 鐘	会 長 富 一美
ソ ン グ	「我等の生業」
唱 和	「四つのテスト」
会 長 挨拶	会 長 富 一美
会 務 報 告	会 長 富 一美
幹 事 報 告	幹 事 小林定雄
プ ロ グ ラ ム	
お客様紹介	
第6分區ガバナー補佐	進藤義男様
各委員会報告	
会員卓話	伊藤元雄会員

ファイヤーサイドミーティング(例会終了後)
・職業奉仕委員会 ・クラブ広報委員会
・会員増強・退会防止委員会

会長挨拶

みなさんこんにちは。
ご挨拶の前に、本日はご来訪者と致しまして、第2790地区第6分區ガバナー補佐であります進藤義男様にご来訪頂いております。



進藤ガバナー補佐には、大変お忙しい中、ご来訪を頂きまして誠にありがとうございます。この後、この1年を振り返ってのご挨拶を頂くことになっておりますので、宜しくお願いを申し上げます。

さて、このところの世界経済悪化に加えまして、新たに新型コロナウイルス(豚インフルエンザ)の世界的な感染拡大の恐怖など、私たちの事業活動、そして家庭生活など様々な分野に於きまして、本当に困頓

とした状況のきょうこのごろでございます。特に新型コロナウイルス等につきましては、会員の皆さんにおかれましても、十分にご用心を頂きたいと思っております。

続いて、先の例会終了後に次年度理事役員さんでクラブ協議会が行われました。鈴木会長エレクトの活動方針の発表の後、次年度に向けて活発な意見が交わされまして、協議内容も奉仕の実践の具体的な部分に時間が費やされ、CLP(クラブ・リーダーシップ・プラン)のローリングプランが浸透し、鈴木会長エレクトをはじめとして、各常任委員長のやる気の部分を垣間見たような気が致しました。

ここで皆さん、「適者生存の法則」というのを耳にしたことがあるでしょうか?

私は、5月の連休中に「ロータリーの情報マニュアル」を改めて読み返してみました。そして、その460ページにロータリーの奉仕の哲学が適者生存の法則であることが紐解かれておりました。

そして、そこからたどっていきますと、このCLP(クラブ・リーダーシップ・プラン)は、まさしく「適者生存の法則」に裏打ちされたものであると感じた次第でございます。これは生物進化論を唱えたダーウィンが言ったことから導き出された考え方です。

この言葉は、平成13年9月27日の第153回国会において当時の総理大臣小泉純一郎さんが内閣総理大臣所信表明演説として引用したことで知られております。

以下、一部を引用させていただきますと、「いよいよ、改革は本番を迎えます。我が国は、黒船の到来から近代国家へ、戦後の荒廃から復興へと、見事に危機をチャンスに変えました。

これは、変化を恐れず、果敢に国づくりに取り組んだ国民の努力の賜物であります。私は、変化を受け入れ、新しい時代に挑戦する勇氣こそ、日本の発展の原動力であると確信しています。進化論を唱えたダーウィンは、「この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか。そうではない。最も頭のいいものか。そうでもない。それは、変化に対応できる生

き物だ」という考えを示したとされています。万物流転、諸行無常、盛者必衰の理、ということですね。では、組織の存続やビジネスにおいて、どうすれば生存する適者として残れるのでしょうか？

それは、ここで小泉さんが教えてくれています。

1) 変化を受け入れること

2) 新しい時代に挑戦すること。

つまり、変化を受け入れて新しい事に挑戦するということですね。先の例会でも申し上げましたが、鈴木会長エレクトには、この機運を損ねることなく、富年度でホップ、鈴木年度でステップ、森川年度でジャンプと3期に亘るローリングプランとして、クラブを引っ張って行っていただける事を、ご期待申し上げます。

以上で、私のご挨拶に代えさせていただきます。

■ 会務報告

1. 例会食事改善について

先の理事会で例会食事改善についての提案があり、富士屋さんと協議の結果、7月鈴木年度より食事を今以上に良くすることで決定いたしました。

■ 幹事報告

①『友』インターネット速報No.380(5月12日号)が届いております。

■ 委員会報告

◆ 「ロッテ愛好会」より

世話人 石田 喜一

6月2日(火) マリンスタジアムパーティールームに於いて、千葉ロッテ対巨人戦の観戦参加者を引き続き募集しております。皆様の参加をよろしくお願い致します。

◆ 地区社会奉仕委員会

委員長 土屋 俊夫

ティスティング・セミナーと千葉県産日本酒と音楽を楽しむチャリティーディナーのご案内

日時：5月22日(金) 17:00～

場所：ホテル ザ・マンハッタン 会費：12,000円
ご協力をお願い致します。(連絡は土屋まで)

■ ガバナー補佐の任期満了のごあいさつ



第6分区ガバナー補佐 進藤 義男 様

折々に美しい日本の四季でございますが、青葉若葉・風薫る今の時期が私にとりまして一番好きな季節でございます。

成田空港南RCのみなさん、こんにちは。本日は私の任期満了にあたりまして、感謝とお礼のごあいさつに伺いました。

振り返ってみますと、ガバナー補佐の役を決める最初の動きは、一昨年のものであります。ロータリーの役は、クラブ会長・幹事なども、そうですが足かけ3年に亘って、心と体に負担のかかった年月でした。

参考までに申しますと、次のガバナー補佐は大綱RCの四之宮さんです。次次年度は、東金ビューRCにてガバナー補佐を引き受ける予定になっております。

さて、私の任期は6月末日までであります。任期中一番の楽しい思い出と言うのは、多くの友人・仲間と交流できたことと、広い分野の知識を授かったこととであります。これらのことは、ロータリーでなければ経験することができなかった貴重な財産であったと思います。「奉仕の理想・超我の奉仕」は、ロータリー活動の根っこの部分にあたるものですがガバナー補佐と言う役職をやってみて、このことがやっとなり理解できるようになりました。

この年度内にあった第6分区内の大きな出来事として、次の三つを挙げておきます。

第1は、分区の分割問題であります。私たちが所属する第6分区には、9つのクラブがありますが、クラブ数が多すぎるので、分割して役職の一巡を早くすべきではないか。と言う提案が出されたこととあります。昨年の12月のことでした。私と次期ガバナー補佐の四之宮さんと相談しまして、パストガバナーの杉木さんにアドバイスを求めました。結論としては、当地区9クラブ全体の意見によって決めることにしました。各クラブにて理事会に諮り、その結論に従うことにしました。今年2月6日の会長・幹事会にて、この案件を採決した結果は、8対1にて、現状のまま9クラブで進むと言う結論になりました。

第2は、2月24日に実施されたIMでございます。これが、私にとりまして一番のビッグイベントでありました。第6分区全会員293名の全員登録のご協力をいただきまして、無事成功のうちにプログ

ラム通りに終了することができました。これは、全クラブみんなの協力の賜物であったと深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

第3は、クラブ名称の変更があったことです。創立以来43年間「横芝RC」として親しまれてきましたが、2月20日のRI理事会において「成田空港南RC」と名称変更が承認されたことです。国内のみならず、海外からも場所のありかを探し易くなるものとおもいます。

今後は、世界に通用する「成田空港南RC」と言う、新しい名称のもとに尚一層のご活躍とご発展をご祈念申し上げます。

昨年秋に、アメリカを震源地とした大不況の津波は、世界中に波及し多くの災難をもたらしています。私年度のスタートの時期は、会員増強の旗を大きく掲げていましたが、いまはハタを半分に下ろしてしまいました。このような逆風の中にも、当クラブにありましては、純増4名という輝かしい成果を挙げていただきました。RI会長表彰に値する成績であるとして、私からも推薦書を送付してあります。

私はこの一年、ガバナー補佐という活動を通じて、ロータリーにおける学びと交流の楽しさを教わりました。ことわざを逆に「苦あれば、楽あり」と考えるようになりました。私自身のこととしても「夢をかたちに」の教えを心に刻んでまいり所存でございます。

今後は、ロータリーの緑豊かな森の中で、人生を再生して進むつもりであります。

成田空港南RCのみなさん、この一年ありがとうございました。

会員卓話

「伊藤家具と家具の歴史」



こんにちは。伊藤 元雄 会員

本日は、昨年、入会して初めての卓話となります。よろしく願いいたします。初めての卓話で、何を話すか、いろいろ迷いましたが、やはり、自己紹介ということで、伊藤家具と家具の歴史について少しお話してみようと思います。もちろん、家具の歴史の方が、長いので、まずは、そちらからお話します。

世界と日本の家具の歴史にも違いがありまして、これは、生活文化の違いに大きく左右されています。みなさん、家具の歴史は、何からはじまったと思われませんか？実は、家具の歴史はイスからはじまったとも言われております。

西洋建築では、日本のような木材中心の暖か味とは対極とも言える無機質な石材中心です。よって、

部屋の中も屋外の延長として考えるスタイルが常識なので、現代でも、靴を履いたまま部屋に入ったりします。そのため、イスやベッドなどが置かれてはじめて住空間として成り立つと言うのが西洋の形式です。

エジプト建築では、ピラミッドが代表ですが、ツタンカーメンのお墓の中からは黄金の玉座（イス）や寝台（ベッド）などが見つかっています。大昔の家具は、使うためだけでなく、王権などの権威の象徴としての意味合いが大きかった訳です。

古代エジプトでは、獅子をモチーフにしたデザインが多かったそうです。現在のヨーロッパ家具の猫足の家具は、エジプトのスフィンクスの足のかたちですが、モチーフになっているということです。

日本では、奈良・平安時代の官庁や大寺には、重要物品を納める正倉院というものがありました。現在でも残っている東大寺の正倉院の中には四重の漆箱があり、すでにこの時代には、収納家具が存在していたことが、確認されています。

履物を脱いで床に座る暮らしをしてきた日本では、それまで家具はあまり使われることがありませんでしたが、平安時代の寝殿造り（平安時代の貴族住宅の様式）の住宅には、厨子（ずし：2枚扉の箱、法隆寺の玉虫厨子が、有名）や箱などの小型の収納具が置かれ、屏風、御帳台（みちょうだい：天蓋付きベッド）、御簾（みす：部屋と部屋の間にかけて仕切りや眼隠しとする家具）などの家具が置かれていました。

日本の家具の代表格でもある箆笥（たんす）が歴史に姿を現したのは、意外にも江戸時代になってからです。それまでは箆笥の代わりに箱型の収納家具である行李（こうり：竹や柳で編んだ衣類入れ）、葛箆（つづら：衣類を入れる箱型のカゴ）、櫃（ひつ：衣類・調度品などを収納する上蓋のある大きな箱）などが用いられていました。

江戸時代後期になると庶民生活が豊かになり、家に物が増えてきました。そのおかげで、整理や出し入れのしやすい箆笥が普及するようになったのです。

明治に入ってから履物を脱ぐという日本の文化では座布団などが椅子の代わりをつとめていました。その後、住宅の様式化が進み、1951年（昭和26年）に公団住宅にダイニングキッチンが取り入れられるようになってからは、一般家庭でも椅子が普及するようになりました。

日本の洋家具の歴史については、安政の通商条約（1858年）が結ばれ、横浜に外国人居留地が設けられたことから始まりました。日本に住む外国人たちは木造の西洋館を建て、母国から家具類を持ち込んで生活を始めました。日本の家具職人たちは外国人居留地の家具の修理や帰国時に残して

いった家具を研究し、洋家具の技術を習得していき、昭和初期には東京の芝に、洋家具生産地が発展していきました。太平洋戦争後、進駐軍とその家族が日本に駐留することとなり洋家具の需要が増大し、家具産業の発展をもたらすことになりました。

日本では、昔から、女の子が産まれると桐の苗木を植えて、お嫁に行く頃になると切り倒し、嫁入り道具の桐箆笥をつくる。こんな風習は、日本各地に伝わる総桐箆笥の話です。そうです。桐の木というのは、成長が非常に早く20年もすれば、箆笥にするくらいの大きさになります。さらに、日本の気候は、桐の木が生長するのに適した土地であり、湿度が多いことから、着物の収納に桐箆笥は必需品だったのです。

もともと、昔の箆笥は樺などの堅くて重い木でつくられ、そこにたくさんの金具を取り付け、巧妙につくられ盗難や破壊に耐えられる金庫の役目だったのです。（たとえば、仙台箆笥や米沢の舟箆笥など）今で言う時代箆笥が箆笥の原型です。

江戸時代になり世の中が平和になった頃、人口が増え家屋が密集しはじめると、大きな火事が頻発するようになりました。そのため、人々は火事から財産を守るために箆笥は、ここから発展を遂げるのです。

弊社は、昭和6年に伊藤建具店として創業し、戦後、本格的に家具づくりを始めたそうです。私は、3代目ですが、家具は作れません。1代目、2代目は、桐たんす、仏壇、机等を作っていました。需要の高まりで、生産が追いつかなくなり、家具の仕入れが、始まりました。

私は、3代目ですが、商売はあまり好きではありませんでしたが、長男で、なんとなく後を継ぐよう内心思っていました、大学卒業後、早く戻って来いと父に言われ、修行も行かず、家に戻ってきました。父は職人のため、「仕事は見て覚えろ」と教えてくれたのは、1尺が、約30cmであることだけで、私も困惑し、木材について書かれた本や、インテリア雑誌の購読、国内家具産地の展示会に出向きメーカーの方々と、お話しさせていただき、その中で、家具のことを学ばせていただきました。

そして、平成3年に、家具グループ「ライフシアターの会」に入会し、全国の家具屋さんと交流を深め、共同仕入れや、オリジナル家具の製作等に取り組んでまいりました。この頃、「縁は人生の宝」が、社訓となりました。

そして、平成9年からは、カナダ、アメリカより直輸入をはじめ、その後、インターネットでの通販も開始いたしました。インターネット販売については、当初、苦戦しておりましたが、何とか順調な展開となってきました。ところが、ホームページでの

販売会社が増えていく中、競争も激化し、現在は、また、苦戦を強いられています。

今後は、店内商品や、ホームページ販売商品を個性のある商品、お客様のためになる商品等を充実させていこうと思っております。

また、会社の成長は、自分自身の成長と比例していると思います。ロータリークラブの活動のなかで倫理観を高め、親睦を深めていただきながら、これを、会社経営に生かし、自分自身も成長させていこうと考えています。

どうか、皆様、若輩者ではございますが、今後ともご指導よろしくお願いいたします。

■ ニコニコボックス

第6分区ガバナー補佐進藤義男様より

富一美君・土屋俊夫君

…進藤ガバナー補佐一年間ありがとうございました
した

倉石昌治君

…いい天気でありありがとうございます

伊藤元雄君

…卓話をさせて頂きありがとうございます

鈴木勇君

…孫娘が山武市陸上競技大会で優勝しました

小林定雄君

…ファイヤーサイドミーティング参加ありがとうございました
うございます

小沼孟君

…進藤ガバナー補佐一年間ありがとうございました
した、誕生祝をいただきました

押尾正康君

…ブレザーありがとうございます

本日計	18,500円
累計	978,211円

■ 出席報告



例会日	会員数	出席	MU	%
5月14日	46	35	11	100.0

☆ 欠席したらメイクアップをしましょう ☆

〈仲間を許しあえる和やかな環境〉

少なからず多くの人が集まる組織の中で、人の成長や思考が同じで合う人と合わない人がいることは、極普通の状態として理解されることです。

どんな会合でも人の数が多くなればなるほど、比較的仲の良い仲間が集まって、行動も共にする機会が多くなることは、人の習性として許容の範囲で、仕方のないことの一つだと思っています。

そうした現状を踏まえながら、お互いが傷つきあわないように、戒めあって生きていく工夫をするのが、大人の世界だと考えているところですし、自分自身でもしっかりと心掛けていくところです。

世代や生活環境が似ていても、持っている自己の価値観が違いますと、とんでもない解釈が違ってしまい、何故こんなにもずれがあるのかと思うほど、人の意識や理念が合わなくなることがあります。

物事を決めていく中でも、どうしても普段から仲良くしている仲間の意見を集約させたいようで、団体交渉で反対意見を述べる方々がいることが、誠に残念なことですし、反省と自戒をして欲しいものだと願っています。

機会があれば腹をわっての話し合いをしなければ、根本的に違った意見を持った方との調整は出来ないのだと思うのですが、なかなか好機がなく、話し合う場を求めての時間を掛けて待ちわびているところです。

人の顔と一緒に全てに同じ考えの方がいないことは知っている心算ですし、よく理解しているところですが、同じ組織に在籍していても、組織の理念を深く知ろうと努力もしなくて、上辺だけで自己勝手な解釈を優先させてしまい、上下関係をもって仲間を烏合の衆と化している存在は、素直に反省をしてもらいたいものです。

その時々で生業で順調に推移している方の中に、兎角勘違いされている経営者がいらっしゃるもので、自社の運営をそのままに、任意団体の中に持ち込もうとしては、筋が間違っている気がしません。

自社であれば、企業トップであれば尚更に我が儘に自己を発揮させることが許されますが、自社とは違う団体であり、様々な立場の人間が寄せ集めての組織では、何はさておき譲り合い許し合っただけの事業運営を心がけたいものです。

素晴らしい能力を持った人であればあるほど、常に謙虚に大きな度量をもって、総意を汲み取る豊かさをもちたいものです。

誰でもがいずれ責任ある役職に就くことを深慮すれば、強引に自己意見を押し付ける方も、いずれは、責任者として指導をする立場になられることを弁えることが、賢い人であればあるほど心にする役目だと思っています。

何故に意固地になって、自分の意見を人に呑み込ませようとする輩がいるのか、歳を重ねると世間を知って、人の素晴らしさと温かみを学び取っていくならば、責めるだけでなく認め合える人間として成長して欲しいものです。

所属するどんな団体でも、仲間を許し合える和やかな環境があつてこそ、お互いの利点を受け入れることから成長も出来、結果的に素晴らしい事業運営がされることになるのだらうと、ひそかに硬く信じています。

(ロータリー情報文献から抜粋)

